

(1)
表 17 カニ類の地区別漁獲量 (t)

年	1980	1981	1982
県 計	126	84	96
国 頭 村 ⁽²⁾		2	5
名 護 市	2	5	5
与 那 城 村	10	7	8
勝 連 町	17	6	6
沖 繩 市	8	4	7
知 念 村	1	2	5
那 覇 市	3	5	11
豊 見 城 村	35	10	15
平 良 市	34	28	8

(1) タイワンガザミが主で他にジャンメガザミ、シマイシガニ、ノコギリガザミ、ワタリシガニ、アサヒガニが含まれる。

(2) 1980～1982年の間に5 t/年以上の水揚げのあった地区を掲げた。

なお、資料は沖縄開発庁（1982、1983、1984）によった。

3 漁獲量の季節変化

勝連、与那城、沖縄市、与那原4漁協でのタイワンガザミの漁獲量の季節変化をみると、勝連では、1981年は7～10月に漁獲量が多くなっているが他の2年と比べ突出して多い時期がない。しかし1982年は8月に、1983年は7月と10月に明瞭なピークがあった。

与那城では1983年のみの調査だが、7月と10月の2回漁獲量のピークがあった。

沖縄市では1981年は勝連同様、7～10月に漁獲量が多くなっているが明瞭なピークはなかった。しかし1982年は8月11日、1983年は10月に漁獲量のピークがみられ

与那原では1980～82の3年間、1～8月の間は低い漁獲量で推移し、9月から漁獲量が増加して10～11月に最大になり、その後減少するという類似した変化を示した（図22）。

このように4漁協のタイワンガザミ漁獲量の季節変化をみると各年、各漁協共通して10～11月に高漁獲期があった（勝連の1982年だけは例外）。前述した漁獲個体の甲幅組成から考えて、この時期に多く漁獲されるのは当才群であり、この当才群の資源加入により漁獲量が増加したとみられる。また、勝連の1982年と83年、与那城の1983年、沖縄市の1982年では7～8月にも漁獲量が高くなっているが、少なくとも8月は当才早期加入群によるものと思われる。

4 漁 場

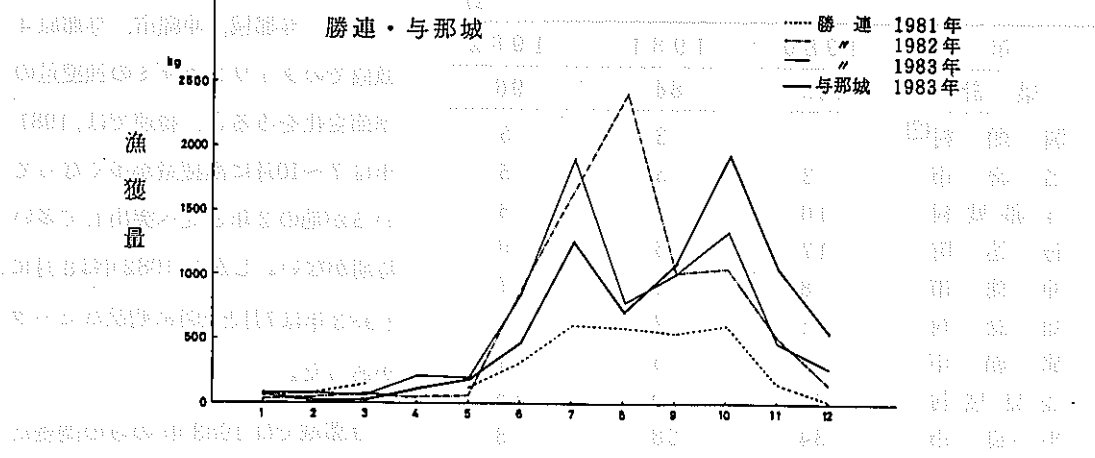
勝連と与那城両漁協に所属する漁民の操業する漁場を7～8月に調べたが、このころは当才早期群が漁獲サイズに達し資源に加入してくる時期である。

勝連では藪地島周辺から浜比嘉島に至る海域を漁場としていた。なかでも藪地島東側から海中道路にかけての5 m以浅での操業が多かった（図23）。

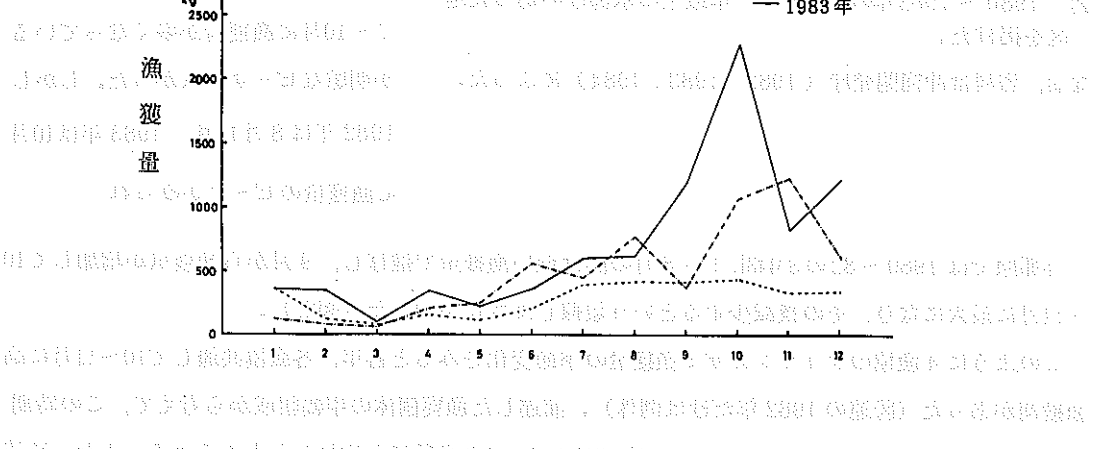
与那城では勝連崎から宮城島南側までの海域、平安座島西側海域と広い範囲に亘って操業していた。

勝連・与那城

沖繩市



沖繩市



与那原

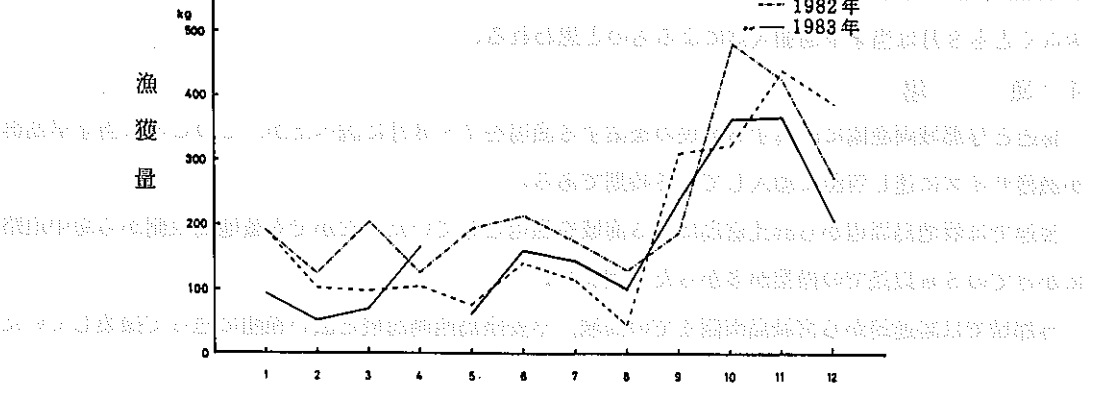


図 22 タイワンガザミの月別漁獲量

操業回数 (1984年7月1日~14日)

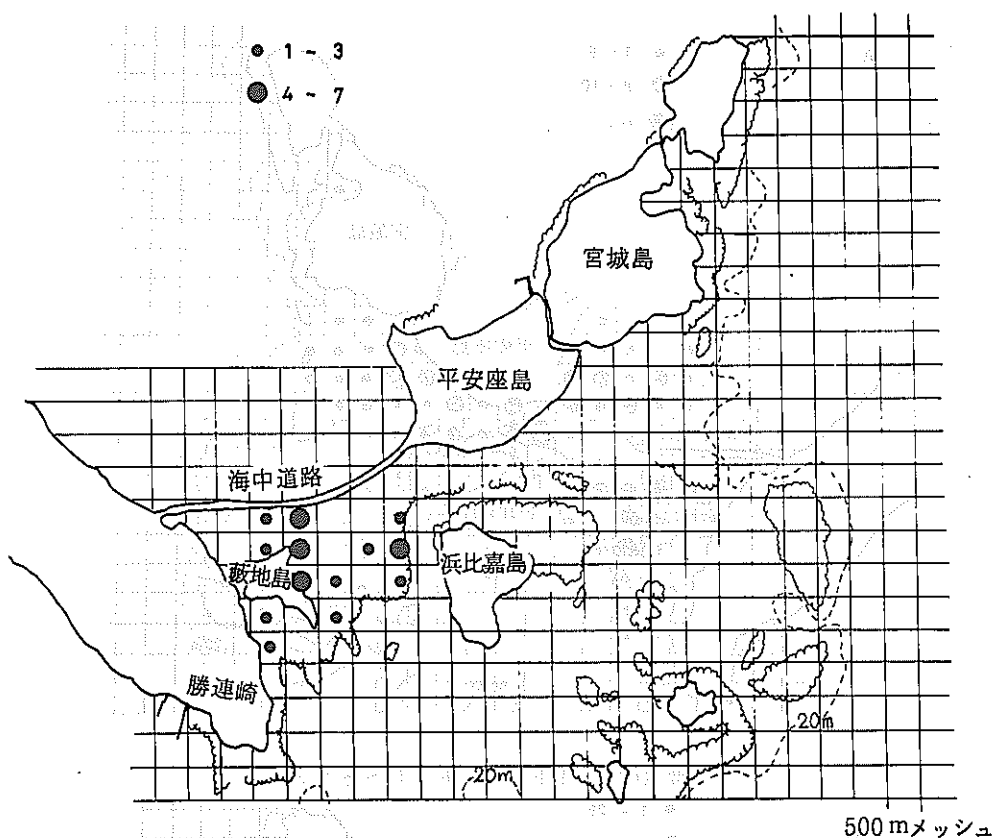
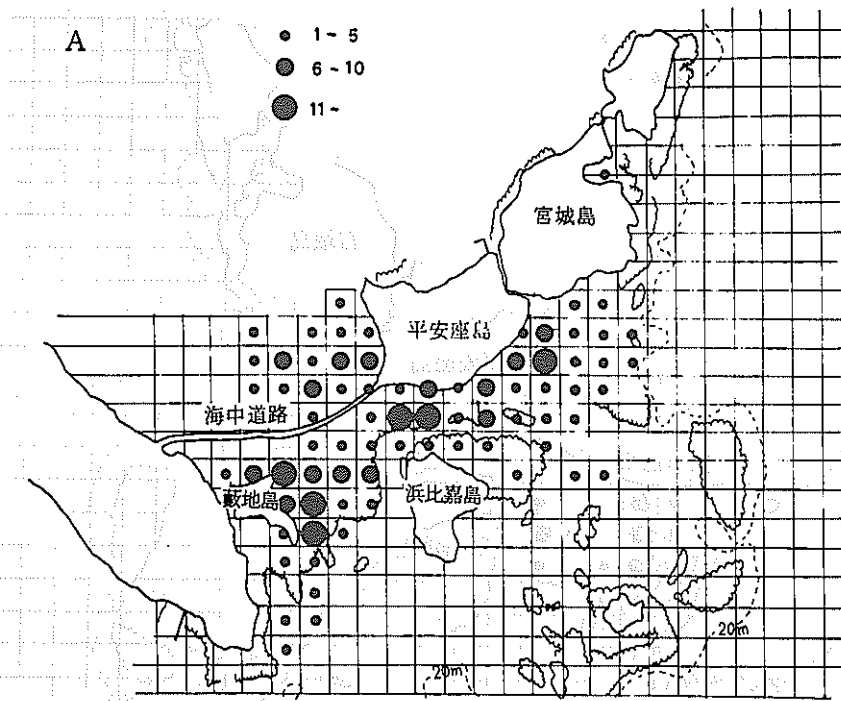


図23 勝連のタイワンガザミ漁場図

その中で操業が頻繁に行なわれたのは菟地島東側、平安座島と浜比嘉島の水道北側、平安座島東側、平安座島西側の4ヶ所であった(図24A)。漁獲量は操業頻度とほぼ相関しているが、平安座島東側では操業回数が多い割に漁獲量が少なかった(図24B)。

図23~24に示されたタイワンガザミ漁場はほとんどが10m以浅の砂泥底域であり、比較的浅いところでタイワンガザミは漁獲されている。

操業回数 (1984年7月1日~8月31日)



漁獲量 kg (1984年7月1日~8月31日)

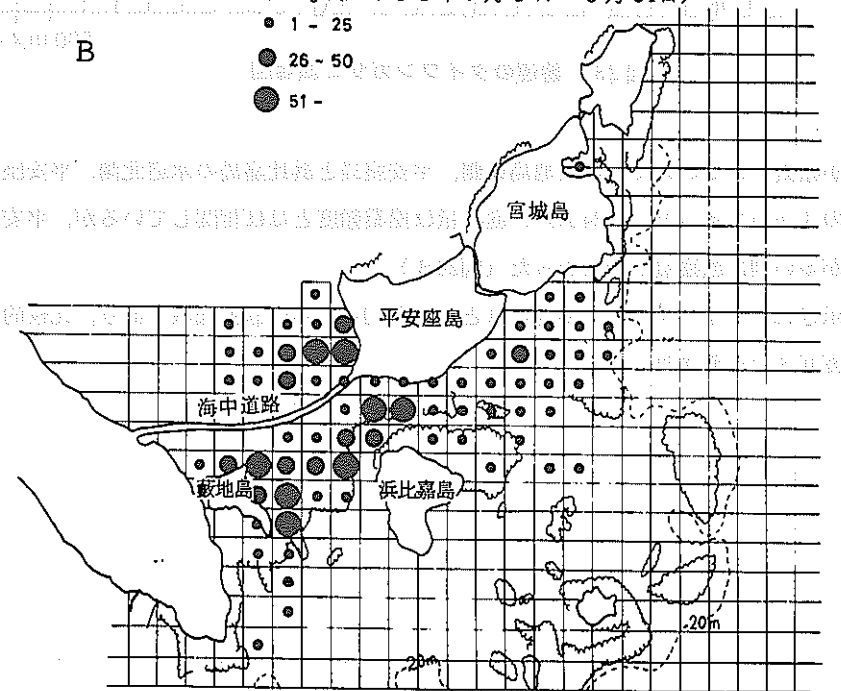


図 24 与那城のタイワンガザミ漁場図 500mメッシュ

図 24 与那城のタイワンガザミ漁場図